

研究結果について

課題名	所属	研究責任者	職名	結果
内視鏡的粘膜下層剥離術におけるポノプラザンフマル酸塩錠の有用性の検討	消化器内科	赤司 太郎	助教	胃上皮性腫瘍(胃腺腫、早期胃癌)に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（Endoscopic Submucosal dissection; ESD）におけるポノプラザンフマル酸塩錠（P-CAB）内服症例とプロトンポンプ阻害薬（PPI）内服症例の胃ESD後出血率に差は認められなかった。また、研究期間中のモニタリングに不備が見つかり、本研究は不適合・逸脱となった。
口腔擦過細胞診（液状細胞診）における人工知能のための診断基準の策定	口腔診断・情報科学	角 美佐	教授	本研究を実施していた研究医師の見立英史先生が他院へ異動し、継続研修が未受講で当院での研究実施資格を喪失し研究継続が困難なため、中止および終了とする。
妊婦における新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の抗体保有に関する研究	臨床検査科	柳原 克紀	教授	検体が採取できず、対象症例がなかった。
新型コロナワクチン接種後の遷延する症状に係る実態調査	臨床感染症学	泉川 公一	教授	国立国際医療研究センター病院が実施している「新型コロナワクチン接種後の遷延する症状に係る実態調査」に対し、長崎大学病院の患者情報を提供した。長崎大学病院は患者情報の提供のみであり、研究結果は把握していない。
呼吸心拍監視マットによる静脈麻酔・静脈内鎮静下における歯科治療時の呼吸循環状態モニタリングの検討	特殊歯科総合治療部	鮎瀬 卓郎	教授	広島大学との共同研究を計画したが、方針の違いから開始できずに中止となった。
高齢者進行・再発胃癌に対する1次治療としてのS-1+ラムシルマブ 療法の多施設共同第II相試験(KSCC1701)	胃・食道外科	永安 武	教授	特定臨床研究移行のため終了とした。
局所進行胃癌・食道胃接合部癌に対する術前化学療法としてのS-1+オキサリプラチン併用療法の有効性・安全性について検討する第II相臨床試験	胃・食道外科	永安 武	教授	2019年3月に臨床研究法移行措置に従い特定臨床研究に移行。KSCC1601 局所進行胃癌・食道胃接合部癌に対する 術前化学療法としてのS-1+オキサリプラチン併用療法の 有効性・安全性について検討する第Ⅱ相臨床試験（許可番号NT190326-01）に統合し終了とした。
変形性膝関節症の軟骨・軟骨下骨の微細構造変化に関する研究：手術摘出骨軟骨のHR-pQCTによる解析	整形外科科学	千葉 恒	助教	研究開始後に評価項目の追加を検討し、新規研究にて提出することとなったため、この研究を中止することとした。
乳歯分岐部感染の原因となる乳歯髓床底副根管のmicroCTを用いた形態学的解析	小児歯科学	西口 美由季	助教	研究開始許可を得たが、研究開始前の事前試験で研究計画書の解析方法では解析が出来ないことが判明したため、現在まで資料を得ることが無く、研究開始出来なかった。研究計画での研究期間は2024年3月末としており、研究責任者が定年退職となるため中止とする。
唾液を用いた骨粗鬆症患者における薬剤関連顎骨壊死のリスク因子探索研究	口腔インプラント学	黒嶋 伸一郎	准教授	研究代表者が2024年3月31日付で異動退職となり、研究継続ができないため、中止の申請を致します。
川崎病急性期治療の費用対効果分析－インフリキシマブ治療による患者効用、治療アウトカムと医療費に対する効果－	小児科	桑原 義典	研究協力員	該当症例がないため。
肝癌の発生および予後に与える因子について人工知能（Artificial Intelligence; AI）による検討	総合患者支援部	田浦 直太	准教授	解析システムツールが立ち上がらなかったため。
患者情報システムを用いた集中治療部の機能評価（JIPAD事業）	集中治療部	関野 元裕	准教授	別途申請（一括審査）にて継続中のため終了とした。
巣状分節性糸球体硬化症における蛋白尿の発症機序に関する研究	腎臓内科	西野 友哉	教授	全体において該当症例なく、研究中止となった。
National Clinical Databaseを用いた 喫煙習慣が上部消化管手術の短期成績に与える影響に関する研究	胃・食道外科	小林 慎一郎	助教	NCD事務局がデータ解析を行ったところ、新型タバコの影響が示唆されたが、症例数が十分ではなく、追跡期間の延長による症例数の上乗せが必要であった。
Galactosaminogalactanをターゲットとした肺アスペルギルス症の新規診断法の開発	臨床感染症学	高園 貴弘	准教授	血清抗原では、感度が不良であった。基礎実験では、マウス尿中の抗原量が高いことが判明したため、前向き研究として別の計画書で研究を進めている。
大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁植込み術施行症例の予後に関する前向き観察研究	循環器内科	前村 浩二	教授	研究計画の継続が困難なため、中止としました。
口腔癌術後再発ハイリスク因子を規定する被膜外浸潤の進展度様式に関する研究	口腔外科	梅田 正博	教授	共同研究機関の研究代表者が退職し、研究の続行が不可能となったため。当院症例の29例はすでに研究代表機関に提供済み。
神経膠腫の悪性度における新規分子を用いた免疫組織化学的検討	原爆・ヒバクシャ医療部門	本山 高啓	検査技師	中止。組織から標的としている蛋白が発現しなかったため。
十二指腸非乳頭部腫瘍に対する局注併用浸水下内視鏡的粘膜切除術と従来型内視鏡的粘膜切除術の有効性と安全性に関するランダム化比較研究（UEMRI vs CEMR study）	光学医療診療部	橋口 慶一	講師	対象病変の発見契機のほとんどが検診内視鏡ということもあり、COVID-19の影響下にあった2021～2022年の症例集積が予想よりかなり下回った（添付ファイル参照）。208症例（各群104症例）のうち、104症例（各群52症例）が集積できた時点で中間解析を行う予定であったが、現状の症例集積状況では目標症例数への到達が難しいと判断し、研究中止とした。中止までに登録された症例は25例、このうち22例が解析対象となった。A群(UEMRI)／B群(EMR)の順に、13例／9例であった。年齢・性別や病変局在・サイズなどの背景因子に有意差は認めなかった。主要評価項目であるR0切除割合は69.2％／66.7％で有意差なし。副次評価項目のうち、一括切除割合は92.3％／77.8％で、後出血をA群の1例に認めた他、合併症は認めずいずれも有意差はみられなかった。遺残再発は各群1例ずつ認めた。

高齢者胃癌症例における術後合併症発症の予測因子の確立	消化器再生医療学講座	金高 賢悟	教授	高齢患者さんに対して術前の認知機能、嚥下機能などを測定したが、有意な結果が得られず中止した。
S-1術後補助化学療法後再発胃癌に対するS-1/CDDP療法の臨床第Ⅱ相試験	消化器再生医療学講座	金高 賢悟	教授	多施設共同研究であったが登録症例集まらず中止となった。
pHメーターを用いた術中膵液瘻の早期発見の試み	消化器再生医療学講座	金高 賢悟	教授	術中に膵周囲浸出液のpHを測定したが、結果も安定せず、症例も解析に必要なほど集積出来ず中止した。
ミトコンドリア脳筋症に対するビルビン酸Na投与	小児科	里 龍晴	助教	患者の状態変化により投与を中止したため。
初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同ランダム化並行群間比較試験および前向きコホート研究・SURF study－	移植・消化器外科学	江口 晋	教授	本試験では患者登録が進まず、2016年2月にデータ・モニタリング委員会より中止勧告がなされ、最終的には49施設312例の登録で試験が終了した。
上部消化管切除術後の消化管ホルモンの推移と術後A D Lの関連の検討	移植・消化器外科	金高 賢悟	講師	胃切除前後でのグレリンなどの消化管ホルモンの分泌状況を測定する予定でしたが、予算が不足し全例を測定できずに中止とした。
S.maltophilia菌血症リスクを減少する抗菌薬使用方法の解明	薬剤部	中川 博雄	薬剤師	調査期間では目的とする患者が見つからず、そのまま終了となった。
耐性メカニズムを考慮した抗菌薬感受性と抗菌薬使用量の比較調査	薬剤部	中川 博雄	薬剤師	各種分離菌の耐性メカニズムを分析するための手技が確立できず、実験遂行に至らなかった。
高齢者乳癌の治療と予後の検討：多機関共同後方視研究	乳腺・内分泌外科	久芳 さやか	助教	別研究で行うため、中止とした。
泌尿器癌における浸潤・転移関連分子の網羅的解析と治療標的としての検討	泌尿器科学	大庭 康司郎	准教授	中止。採取した組織から標的としている蛋白が発現しなかったため。
病態別薬物動態パラメータを用いたモンテカルロシミュレーションによる薬効解析	薬剤部	中川 博雄	薬剤師	調査期間では目的とする抗菌薬の血中濃度測定法が確立できず、そのまま終了となった。
ヒトプリオン病における異常プリオン蛋白の検出法の臨床研究	保健科学	佐藤 克也	教授	現在プリオン病の診断は臨床症状に加え、MRI 拡散強調画像、脳脊髄液検査、脳波検査、遺伝子検査を補助的に施行して行う。しかしながらこれらの検査はプリオン病の補助的検査の一つにすぎない。プリオン病の確定診断は脳生検又は病理解剖後の脳組織での異常プリオン蛋白の検出及び免疫組織染色での証明である。そこで我々は当科及び関連病院で臨床的にプリオン病と診断された生存中の患者に対し、低侵襲性の異常プリオン蛋白検出法の確立を行う。 申請者（研究代表者）は病院から医学部感染分子の移動となった。長崎大学病院の入院患者のサンプルは利用しないために、倫理委員会の書類等は長崎大学医歯薬学総合研究科倫理委員会に再提出とした。
Gram染色で陽性球菌が観察された皮膚軟部組織感染症の症例における、患者背景と細菌培養検査で検出された菌種および薬剤感受性についての調査	皮膚科・アレルギー科	欽塚 大	講師	長崎大学皮膚科アレルギー科において、2019年4月から2020年3月までに細菌培養検査が行われた検体のうち、開放性膿・非開放性膿・皮膚組織のいずれかの検体よりGram陽性菌、とりわけMRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）が同定された症例を検討した。外来または入院48時間以内に提出された検体から菌が検出された症例を市中感染型（63例）、入院48時間以降は院内感染型（51例）であった。薬剤感受性試験に注目したところ、市中感染型MRSAでは院内感染型と比較してキノロン系、アミノグリコシド系、クリンダマイシン、ST合剤に対する感受性が高い傾向が見られたが、有意差はなかった。
抗体医薬の標的結合薬物量の測定法開発と臨床応用	薬剤部	大山 要	准教授	研究開始後に測定法の不備（再現性不良）が判明し、測定の再構築を進めたが、研究期間終了までに再構築ができず、患者検体の測定も行えなかった。
免疫抑制剤の標的結合薬物量の測定法開発と臨床応用	薬剤部	大山 要	准教授	従来の血中薬物濃度とは異なる標的に結合した薬物量を測定することを企図した研究である。基礎検討でキャリアータンパク質に結合したタクロリムスのMS/MSスペクトルを確定し、実試料測定を行った。しかし、いずれの患者試料からも予定したMS/MSスペクトルが得られず、予定した薬物量測定に至らなかった。
再生医学研究への応用を目指した周産期産物のバイオバンキングシステム構築	細胞療法部	長井 一浩	准教授	周産期産物の試料の収集にあたり、被験者への説明と同意作業、採取、凍結保存までのプロセスを適切に実施し得た。また、個人情報の取扱を適正に行い、倫理的な問題は生じなかった。31検体の保管を行った。今回、研究責任者の転出に伴い、中止とした。
臨床検体を用いた肺炎マイコプラズマ新規検出試薬の性能評価試験～相関性試験～	臨床検査科	柳原 克紀	教授	検体の収集が難しいと判断され終了となった。
小腸癌に対するCapecitabine+Oxaliplatin療法	がん診療センター	本田 琢也	助教	小腸癌の1症例に、実臨床として実施。希少がんのため2例目は入らず中止となった。
高用量レミフェンチル麻酔と術前経口補水療法による周術期管理の検討	歯科麻酔学	倉田 眞治	准教授	適切な症例がなく、研究開始にいたらなかったため中止とした。
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌アウトブレイク終息後のNICUにおける耐性菌保菌率と背景	小児科	木下 史子	講師	集計し、早産児には日齢が経過してからのCRE保菌、正期産では産後まもなくのESBL保菌がみられたが、図表としてはインパクトに乏しかった。コロナ禍にさしかかり、学会でも耐性菌に対する関心も低く、投稿を断念した。
臓器移植あるいは末梢血幹細胞移植後に発症した口腔癌患者の治療成績と腫瘍微小環境に関する後ろ向き観察研究	口腔外科	梅田 正博	教授	研究データ解析の段階で明らか有意差および新規性のある所見が出ず、中止とした。

口腔外科手術周術期における抗凝固薬使用患者に対するヘパリンブリッジの有効性に関する多施設共同後ろ向き観察研究	口腔外科	鳴瀬 智史	講師	症例解析が困難であり、中止した。
抗血栓療法患者における下顎智歯抜去後の後出血発症に関する多施設共同後ろ向き観察研究	口腔外科	鳴瀬 智史	講師	症例解析が困難となり、中止した。
皮膚悪性腫瘍におけるセンチネルリンパ節生検	皮膚科・アレルギー科	欽塚 大	講師	皮膚悪性腫瘍、とくに悪性黒色腫ではセンチネルリンパ節生検を施行し、早期にリンパ節転移を見極め、予防的リンパ節郭清を行わないことが推奨されている。本研究では、主に有棘細胞がんや乳房外Paget病などの皮膚悪性腫瘍において、センチネルリンパ節生検を行った。術前の画像検査で転移が想定されたセンチネルリンパ節を摘出し、病理結果で陰性であった症例ではリンパ節郭清を省略することができ、患者のQOL向上に寄与できたと考える。一方、リンパ節郭清を行わなかった症例で、その数ヶ月後リンパ節転移が新たに出現した症例が存在している。 ゆえに、センチネルリンパ節生検の有用性については、十分な吟味が必要と考え、本研究を中止終了することとした。
糖尿病症例における肝内脂肪及び肝硬度の検討	消化器内科学	中尾 一彦	教授	症例登録期間内に目標の症例数の登録ができなかったため。
末梢血・皮膚組織における皮膚腫瘍疾患関連分子の発現に関する研究	皮膚科・アレルギー科	欽塚 大	講師	種々の皮膚悪性腫瘍について、末梢血・皮膚組織を用い解析を試みたが、症例登録数が限られており、比較検討が難しかったため、本研究は中止終了とした。
膵頭十二指腸切除術におけるBraun吻合の必要性に関する研究	移植・消化器外科学	江口 晋	教授	2016 年以降研究責任者不在のもと放置されていた。対象者一覧が無いため最終的に何症例当該研究に登録したのかも不明である。病院長指示のもと研究結果の解析評価は今後一切行わず、研究中止とする。
膵酵素補充剤による膵切除後の脂肪肝の発生抑制効果の検討	移植・消化器外科学	江口 晋	教授	2016年以降研究責任者不在のもと放置されていた。対象者一覧が無いため最終的に何症例当該研究に登録したのかも不明である。病院長指示のもと研究結果の解析評価は今後一切行わず、研究中止とする。
外傷全身CTによる被ばくが染色体に及ぼす影響について	高度救命救急センター	上木 智博	医員	症例数が当初の予想以上の集まらず、共同研究者で協議の結果、中止とした。
川崎病における白血球尿の病態解明	原爆・ヒバクシャ医療部門	白川 利彦	講師	該当症例が少なく、データ収集が困難であり、川崎病における白血球尿についての解析は困難であった。
乾癬患者と乾癬関節炎患者における血清バイオマーカーの比較	リウマチ・膠原病内科	川上 純	教授	福岡大学病院皮膚科において本研究が倫理委員会審査を通過しなかったため、研究全体として症例登録を行わず、研究中止とした。
癌化学療法に伴う味覚異常の原因別分類、および原因に基づいた治療の有効性の検討	乳腺・内分泌外科	江口 晋	教授	これまでに症例登録がなく、また味覚検査キットが販売中止となったことから、研究の継続が困難となった。
腹腔鏡・胸腔鏡術中洗浄装置の開発研究	腫瘍外科学	永安 武	教授	洗浄装置の性能が臨床研究実施レベルまで到達しなかったこと、および担当者転勤のため中止とした。
ホスカルネットナトリウム水和物とループ利尿薬の併用時の安全性の検討	薬剤部	大山 要	教授	研究者異動のため、研究中止。情報収集等を含め何も行わずに中止となった。
難聴児の聴性行動発達および言語発達に影響を及ぼす要因に関する研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	木原 千春	教授	研究責任者の退職およびそれに伴う若干名の研究協力者の異動のため中止となった。
膵・胆道癌における血中循環癌細胞の検索	移植・消化器外科学	江口 晋	教授	膵臓癌12例にてまず検索したが、血中循環癌細胞が3/12例にしか認められず、かつ予後との相関も認められず中途中止とした。
内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）後膵炎に対するセレコキシブ予防投与の検討	移植・消化器外科学	江口 晋	教授	25例行ったところで、介入・対照群共に膵炎生じず中止。
腹腔鏡下大腸悪性腫瘍切除手術患者の静脈血栓塞栓症におけるエノキサパリンの有効性・安全性の検討	腫瘍外科学	永安 武	教授	検査部の了承が得られず中止となった。
内視鏡的粘膜下層剥離術におけるポロプラザンフマル酸塩錠の有用性の検討	消化器内科	赤司 太郎	助教	胃ESDにおけるP-CAB内服症例とPPI内服症例の間の有効性、安全性の比較に関して、本試験の結果、十分な情報が得られなかった。
口腔癌手術患者における嚥下機能、摂食状態、含嗽が唾液中細菌数に与える影響に関する前向き観察研究	口腔保健学	五月女 さき子	准教授	研究計画を変更して新しく研究を行うため。
慢性肝疾患における筋肉量の意義についての検討	消化器内科	山島 美緒	医員	症例の収集が不十分で比較検討が難しかったため。
血液透析における眼底血液循環への影響	眼科	北岡 隆	教授	症例数が集まらなかったため中止した。
精神科病棟におけるNST介入の効果と臨床的意義	栄養管理室	前山 美和	管理栄養士	研究承認期間が2022年3月31日で時間があまりなく、人員不足により研究が継続できなくなったため。
肝、胆道、膵疾患とHelicobacter属感染との関連の検討	肝胆膵外科・肝移植外科	今村 一步	助教	該当症例を認めなかったため研究中止・終了とした。

「摘出脾からの脾島分離・凍結保存」に関する研究	肝胆脾外科・肝移植外科	今村 一步	助教	該当症例を認めなかったため施行なし。
甲状腺/副甲状腺手術に用いた浅頸神経叢ブロックに関する後方視的調査	麻酔集中治療医学	村田 寛明	准教授	過去の手術実績から研究期間内の該当症例数を12症例と予想していたが、実際には14症例が該当した。浅頸神経叢ブロックは全例でレボブピバカイン20mLを使用し、濃度は0.25%と0.167%が各々7症例であった。手技に伴う合併症は生じなかった。術後疼痛管理は良好で、アセトアミノフェン静注液の定時投与以外に追加の鎮痛薬を必要とした症例は無かった。1例で悪心、1例で嘔吐を認めたが、全症例で手術翌朝から経口摂取が開始された。甲状腺/副甲状腺手術に対して浅頸神経叢ブロックは安全かつ優れた鎮痛手段であることが示唆された。
剖検心による心筋及び冠動脈病変と支配神経の変化についての検討	循環器内科学	河野 浩章	准教授	症例数が集まらなかったため、研究中止とした。
特発性肺線維症患者に対する抗線維化薬投与の有用性および効果因子の解析	呼吸器内科	迎 寛	教授	エンドポイントとなるイベントの発生率が極めて低いため、評価困難であり中止とした。
痒みの客観的評価方法の確立に向けた分析的研究	皮膚病態学	室田 浩之	教授	マルホ株式会社からのitch trackerインストール済みapple watch の貸与が打ち切りとなったため、継続できなくなり中止とした。
薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）にみられる骨膜反応の病態解明に関する多施設共同前向き研究	口腔保健学	五月女 さき子	准教授	多施設での研究を予定していたが、コロナ感染拡大に良り研究打ち合わせができず、また手術自粛となったことから対象症例の手術が行われず、サンプル採取できなかった。
悪性胸膜中皮腫に対する集学的治療の評価	がん診療センター	福田 実	准教授	2015年8月1日から2019年12月31日までに当院で診断された悪性胸膜中皮腫は40例であった。症例数が十分でなく、また研究者が退職することになり研究の継続は難しいと判断し、中止することとした。
遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC : Hereditary Breast and Ovarian Cancer）における妊孕性温存の方法と許容年齢の検討	乳腺・内分泌外科	永安 武	教授	日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構（JOHBOC）へ申請し、データをもらって解析予定であったが、JOHBOCの理事会で、同様の検討が既に行われているとの理由でデータ解析ができなかったため中止となった。
本邦の新型コロナウイルス感染症流行期第一波および第二波の各時期における入院診療およびアウトカムの比較検討	臨床感染症学	田代 将人	講師	研究許可をいただいた時点でデータ提供元が類似のテーマで研究を開始してしまったため、データの提供を受けることができずに研究は中止となった。
新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）遺伝子検出機器の性能評価	検査部	柳原 克紀	教授	5症例に対してGeneSoCおよび従来の機器を用いたリアルタイムPCR法による測定を行い、いずれも陰性であった。
消化管腫瘍におけるprotoporphyrin IX蛍光スペクトル検出	消化器内科	磯本 一	准教授	下記の理由により研究中止とする。 1) 研究責任者の異動 2) 蛍光スペクトル検出が不安定であったこと
十二指腸腫瘍に対するBlue Laser Imaging /Linked Color Imagingを用いた内視鏡診断の有用性についての検討	光学医療診療部	橋口 慶一	助教	40名の研究参加を予定していたが5名の参加にとどまり、予定していた解析を行うには不十分と判断し研究を中止した。当初の予定より参加者が少なかった理由として、以下の2点が挙げられる。①新型コロナウイルス感染拡大のため、十二指腸腫瘍の発見契機の大部分を占める健診内視鏡を受療する機会が減少したこと、②新型コロナウイルス感染拡大に伴う一般診療制限の影響で、十二指腸腫瘍に対する内視鏡治療症例がたびたび延期対象となったこと、である。
日本人工関節登録制度	整形外科学	尾崎 誠	教授	日本における人工関節手術の状況がデータベース化された。日本整形外科学会症例レジストリー（JOANR）に移行されたため中止となった。
側方進入椎体間固定術施行状況および手術合併症に関する全国継続調査	整形外科	田上 敦士	助教	側方進入椎体間固定術の合併症のデータベース構築に関する研究に移行しているため中止とする。
パセドウ病手術前後の高解像度CT(HR-pQCT)による骨微細構造解析	乳腺・内分泌外科	江口 晋	教授	症例集積が進まず中止とした。
アトピー性皮膚炎の夜間の痒みが睡眠に与える影響の客観的評価法の検討：探索的臨床研究	皮膚病態学	竹中 基	准教授	臨床研究を共同で行う予定であった企業の都合により中止とした。
シェーグレン症候群患者の末梢血由来単核球を用いた新規細胞治療薬CA-702の特性解析	臨床研究センター	川上 純	教授	今回施行したシェーグレン症候群患者9例の血液検体において健常人の検体と遜色ない品質である細胞を回収することができた。
リウマチ性多発筋痛症患者における画像評価および治療経過に関する検討	リウマチ・膠原病内科	川上 純	教授	症例数が増えないため研究中止とする。
遺伝性乳がん・卵巣がん症候群に対するリスク低減手術(卵巣卵管切除術)	産科婦人科	三浦 清徳	教授	研究開始当初は保険適用外であったリスク低減両側付属器摘出術を施行した。特に問題なく手術は終了した。
オキサリプラチンによる慢性末梢神経障害の発現と胃酸分泌抑制薬併用との関連に関する研究	安全管理部	橋詰 淳哉	薬剤師	外来でのプロトンポンプ阻害薬の使用について、当院の処方記録から判断する予定で進めていた。研究開始後、業務として外来化学療法室での薬剤師指導を行う中で、当院以外からもプロトンポンプ阻害薬を使用されている事例が散見された（事例は、研究対象期間外のため研究対象者ではないが、オキサリプラチンを使用する患者）。そのため、後方視的調査では正しくプロトンポンプ阻害薬の併用状況を評価できないと判断した。研究開始前に他院での処方の取り扱いをさらに調査しておくべきではあったが、今回は研究開始後に外来業務に従事するようになったことから判断が研究開始後になってしまった。

悪性黒色腫再発、転移例に対するD-Feron(点滴静注)もしくはFeron単独静注療法	皮膚科・アレルギー科	楢塚 大	講師	悪性黒色腫に対するDacarbazineとInterferon-β局注療法の効果について後ろ向き研究によるデータ解析を行った。既に報告されているDacarbazine単剤療法と比較し一部奏効例が見られたものの、無効症例も多くみられた。近年、免疫チェックポイント阻害薬の登場で、既存治療であるDacarbazineとInterferon-β療法を上回る成績がでていること、またInterferon-β製剤の供給が中止されることから、本研究を中止終了することとした。
多発肺癌の治療戦略を探る	呼吸器外科	永安 武	教授	症例の検討を行ったが、目的とした結果が得られなかったため中止した。
長崎大学病院集中治療室の入室患者の特徴と理学療法の実施状況に関する調査	医療技術部	及川 真人	理学療法士	本研究は、倫理委員会申請後に他の研究者によって実施されたため、中止とした。
肝切除におけるEnhanced recovery after surgery プロトコルの導入	移植・消化器外科学	曾山 明彦	助教	世界的に、実臨床として一般的に施行されることが多くなり、当院においても問題なく導入できたことから研究としての施行は中止した。
びまん性肺疾患患者における呼気一酸化窒素濃度とモストグラフの検討	呼吸器内科学	迎 寛	教授	対象症例の集積が進まず、中止となった。
肺生検組織におけるHelicobacter pylori VacAやHSP47などの線維化関連蛋白の発現と臨床像の検討	呼吸器内科学	迎 寛	教授	対象症例の集積を行ったが、胃生検組織とHelicobacter pylori VacAとの関連を示すことができなかったため中止とした。
胃生検組織におけるHelicobacter pylori VacAの発現と臨床像の検討	呼吸器内科学	迎 寛	教授	対象症例の集積を行ったが、胃生検組織とHelicobacter pylori VacAとの関連を示すことができなかったため中止とした。
Helicobacter pylori VacAの気管支肺胞洗浄液分布と疾患との関連に関する研究	呼吸器内科学	迎 寛	教授	対象症例の集積を行ったが、Helicobacter pylori VacAの気管支肺胞洗浄液と疾患との関連を示すことができなかったため中止とした。
循環器疾患患者血清中のHSP47および線維化関連蛋白質の解析	呼吸器内科学	迎 寛	教授	対象症例の集積が進まず、研究責任者も異動となったため中止とした。
呼吸器疾患患者血清中および気管支肺胞洗浄液中のHSP47および線維化関連蛋白・遺伝子発現の解析	呼吸器内科学	迎 寛	教授	対象症例の集積を行い、血清中HSP47と間質性肺炎の関連性が示された。
過敏性肺炎における特異的IgG抗体測定の臨床的有用性に関する研究	呼吸器内科学	坂本 憲徳	講師	過敏性肺炎において特異的IgG抗体測定の意義を見出すことができなかったため中止とした。
真菌感染症に関与する感染防御機構についての検討	臨床感染症学	宮崎 泰可	准教授	IFN-γ自己抗体の有無を確認していたが、対象疾患では陽性患者が少ないことが判明したため中止とした。
経カテーテル的大動脈弁留置術患者の臨床フレイル・スケールによる身体機能と退院時転帰との関連	医療技術部	田中 康友	理学療法士	主要アウトカムである退院時転帰に関して、転院例が予想以上に少なく、解析が困難であったため中止とした。
臍胸の予後及び治療経過に関連する患者背景因子を明らかにする調査研究	呼吸器内科	山本 和子	助教	現在の症例数では新たな知見を得ることができず、また今後十分な症例数を集めることも困難と考えられ、中止とした。
SD-OCTを用いた緑内障手術後の視神経乳頭における網膜神経線維層厚の経時的変化の検討	眼科	北岡 隆	教授	緑内障手術前後における視神経乳頭の形態的变化を観察する目的であったが、①研究の適応となる症例数が十分にあつまらなかった②外来に予定通り受診にすることが困難であった③追加治療を必要とした などの理由により研究継続が困難と判断し、研究中止とした。
日本形成外科学会疾患登録システム	形成再建外科学	田中 克己	教授	2017年から日本形成外科学会疾患登録システムがNCD(National Clinical Database)に全面移行となっていました、この時点での再申請が必要であったことを失念しておりました。今回、当該研究の研究期間の終了に伴い、NCDへの症例登録として改めて病院長の許可を得て実施するため、本研究は終了する。
胃全摘、食道空腸吻合再建術における術後合併症に関連するリスク因子の解析	胃・食道外科	日高 重和	講師	研究責任者の退職に伴い中止とした。
ヒト胃癌組織における3q26染色体領域遺伝子群の発現の免疫組織化学的解析	腫瘍外科	日高 重和	准教授	胃癌手術検体の組織標本を用いて胃癌発現に関わる4種の抗体による免疫染色を行ったが、いずれも明らかな有意差を認めず、研究内容発表が困難なため中止とした。
慢性閉塞性肺疾患(COPD)の全身性炎症マーカーに対するサルメテロール・フルチカソンプロピオン酸エステル配合剤の効果	呼吸器内科学	尾長谷 靖	准教授	主幹施設である川崎医科大学附属病院で本研究が中止となったため、中止とした。

COVID-19へのファビピラビル投与における治療効果の検証	感染制御教育センター	泉川 公一	教授	本研究を申請した2020年8月時点では、ファビピラビルは厚生労働省にて同年秋頃にCOVID-19治療薬としての薬事承認が得られるという情報も挙がったが、最終的には現時点でも承認は得られておらず、保留となっている。また、実臨床の現場では、COVID-19には大規模研究で臨床効果が得られているデキサメタゾン投与や、国内でも承認された唯一の抗ウイルス薬であるレムデシビルがほぼルーチンで投与される現状がある。とくにレムデシビルに関しては、当初は重症肺炎のみが適応であったが、2021年1月に「SARS-CoV-2による肺炎」への適応拡大となった。つまり、COVID-19で肺炎の多くの患者へ投与される現状がある。 このような経過もあるため、本研究でファビピラビルを投与されたCOVID-19患者の症例を集積することは非常に難しいと判断して、治療計画の中断を決定した。
頭蓋咽頭腫における遺伝子変異と臨床成績の検討	脳神経外科学	氏福 健太	助教	予備実験のみ行ったが、論文発表レベルの検討までは至らなかった。
ポリソムノグラフィーを用いたリウマチ性疾患患者の睡眠障害の検討	リウマチ・膠原病内科	一瀬 邦弘	講師	本研究に使用予定であったポリソムノグラフィーが開発元企業による開発中止のため、研究継続が困難となったため中止とした。
核医学治療によるDNAへの影響についての研究	原爆・ヒバクシャ医療部門	工藤 崇	教授	本研究計画は同じ手法を用いた「核医学診断検査によるDNAへの影響の研究」と平行して実施する予定であったが、計画段階から血液検体を広島大学に送付することが必要であった。治療対象者の入院日程と広島大学で検体を扱える日程が合致せず、血液を凍結保管して保管する方法も利用不可能であることが、上記の平行して行っていた研究の結果から明らかとなり、日程の齟齬を解決するに至らなかったため中止とした。
子供を持つ乳がん患者への複合型サポートグループプログラムの有効性の検証	看護実践科学	橋爪 可織	助教	研究対象者のリクルートが難航し、介入を開始するために必要な人数が確保できなかった。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、対象者を集めて対面で行うサポートプログラムの開催ができないと判断した。 さらに、研究責任者が長崎大学を退職することとなったため、長崎大学病院での対象者のリクルートが困難であると判断し、中止することとした。
Mタンパクの質量分析	病態解析・診断学	宇野 直輝	助教	血清と尿検体について免疫グロブリン軽鎖ラムダ型抗体で免疫沈降した結果、55kDの蛋白が免疫グロブリンA軽鎖ラムダ型に結合していることが示唆された。研究責任者の退職により本研究の継続が困難となるため中止する。
「咀嚼物画像を用いて新規咀嚼能力評価法の妥当性を検証する健康者対象多施設共同後ろ向き観察研究」	保存・補綴歯科	鳥巢 哲朗	講師	主幹施設の岡山大学から中止の連絡があったため中止とした。
高齢者の全身麻酔後の睡眠障害に起因する上気道閉塞が周術期の糖代謝異常に与える影響	歯科麻酔学	鮎瀬 卓郎	教授	被験者の登録が出来なかったため研究期間中にデータ収集が出来なかった。
急性冠症候群の発症に関連する冠動脈病変の性状と血液バイオマーカーの解明	循環器内科	前村 浩二	教授	データに欠損値が多いことや、冠動脈内画像の解析が困難な症例も多いため、解析を中止した。
冠動脈内画像診断で評価した冠動脈病変の性状と長期予後に関連する因子の検討	循環器内科	前村 浩二	教授	登録症例数が少なく、欠損値も多く、かつ2年間のフォローアップを行えた症例も少ないため、解析を中止とした。
切除可能進行大腸癌における周術期好中球・リンパ球比(Neutrophil lymphocyte ratio:NLR)の術後成績への影響	小児外科	山口 峻	医員	中間解析にて、大腸癌手術症例における好中球・リンパ球比が予後に及ぼす影響はあまり無いと判断し、目標症例数に至る前に研究中止とした。
HTLV-1陽性膠原病リウマチ性疾患の病態解明のためのレジストリ研究	リウマチ・膠原病内科	川上 純	教授	外部中央倫理審査で一括管理される新規研究へ移行となるため中止とした。
HTLV-1感染者および関連疾患患者に合併する炎症性疾患の 炎症促進因子の探索 ～多施設共同症例集積研究～	リウマチ・膠原病内科	川上 純	教授	外部中央倫理審査で一括管理される新規研究へ移行となるため中止とした。
TSH受容体異常症における遺伝子異常の検討	内分泌・代謝内科	安藤 隆雄	講師	対象症例がおらず、実施されずに研究機関が終了、中止した。
アボクリン汗腺癌、原発切除および術後放射線化学療法後の肺多発転移例に対するTC療法	皮膚科・アレルギー科	鋤塚 大	講師	アボクリン腺癌に対するTC療法の効果について検討を行った。登録症例数の解析からは残念ながら病勢を抑制できたとはいえなかった。さらに今回の経過や検査結果などをもとにさらなる病態改善を目指してゆきたい。
変形性膝関節症の膝関節立位正面撮影法の検討～撮影補助具 SynaFlexer®の有用性について～	放射線部	山口 友貴	放射線技師	症例数不足のため中止した。

早期デブリドマンにおけるサーモグラフィーの有用性	高度救命救急センター	岩尾 敦彦	助教	受傷早期の軟部組織とサーモグラフィー画像との間には明らかな関連性が認められなかったため中止した。
抗好中球細胞質抗体（ANCA）関連血管炎性中耳炎の病態解明に関する研究	地域医療支援センター	渡邊 毅	助教	他施設共同研究であったが、全体の症例数が集積できず主幹施設から中止とする旨の連絡があったため中止した。
口腔癌手術における周術期管理方法に関する多施設調査 ～各施設10年の変遷と施設間の違い～	口腔外科	柳本 惣市	講師	多施設から提供がなく、症例収集ができなかったため中止した。
細胞内寄生菌に対する宿主側の感染制御因子の探索	総合診療学	泉田 真生	助教	終了期間まで適切な症例が集まらず、期間の延長も行わないこととなったため中止した。